



地域の皆様と共に！

自立と誇りある
日本をつくり直します**自民党** 関口昌一参議院議員と共に頑張ります！

自由民主党衆議院議員【埼玉 3 区（越谷市・草加市）】

外交の現場～ミュンヘン安全保障会議で感じたこと～

ニュージーランド・クライストチャーチ地震追悼式典に参加

※きかわだひとしとは？（きかわだひとしプロフィール）

きかわだステーション**第 43 号**きかわだひとし FBはこちら！友達募集中！↑↑↑
衆議院議員黄川田仁志事務所発行 電話 048-933-0591**外交の現場～ミュンヘン安全保障会議で感じたこと～**

討論の様子はドイツの放送局によりインターネットで生中継された。
下の写真は、傅瑩（フーイン）中国全人代外事委員会主任委員。



自由民主党衆議院議員の黄川田仁志です。

外務大臣政務官に就任して以来、海外出張がとても多くなりました。1か月のうち半月ぐらいは、海外での仕事です。「国会議員は海外に行って、一体何しているのか？」と思う方も多いと思います。現在は通常国会の会期中でありますので、国会日程の合間を縫い、1泊3日や機中泊の行程で、出張先では、そのほとんどの時間を外国の要人との会談等に費やしています。

安倍総理や岸田外務大臣の代わりに、政府を代表して会談等を行うことから、当然、責任は重大です。外交の現場では、一言ひとことが国益に直結します。事前に外務省の担当職員と打合せ等を入念に行うものの、相手国の要人から、思わぬ質問や意見が出ることもあり、臨機応変且つ慎重に対応しなければなりません。

2月13日、ドイツのミュンヘンで、「ミュンヘン安全保障会議」が開催されました。国内でも、NHKをはじめ、各局のテレビニュースに取り上げていただいたことから、ご覧になった方もいらっしゃると思います。この「ミュンヘン安全保障会議」、52回を数え、経済におけるダボス会議のように、安全保障の国際会議としては、とても由緒ある重要な会議です。

私は、参加各国の要人と会談させていただいた他、「中国と国際秩序」を議論するパネルディスカッションに聴衆の1人として参加させていただきました。中国からは、傅瑩（フーイン）中国全人代外事委員会主任委員がパネリストとして参加していました。私は、質疑応答に際し挙手し、昨今、中国が南シナ海等において、力による一方的な行動や既成事実化を進めていることに対し、法の秩序を遵守する立場から認められない旨、発言させていただきました。このことは、安倍総理をはじめ、日本国政府として、様々な国際会議の場で述べている公式な見解です。これに対し、傅瑩氏は、テーマと全く関係のない尖閣諸島を持ち出し、日本が尖閣諸島を国有化したことこそが、一方的な現状変更の試みである等と日本を批判しました。

ミュンヘン安全保障会議のような国際会議の場で、傅瑩氏の発言をそのまま放置すれば、わが国の国益を損ね、事実と異なる情報が世界に発信されてしまいます。そこで、私は再度発言を求め、傅瑩氏が全く関係のない尖閣諸島の問題を提起されたことは大変遺憾であること、そもそも尖閣諸島は、歴史的にも国際法的にも、わが国固有の領土であり、現に有効支配していることから、領土問題は存在しない旨、強く発言させていただきました。 ⇒**裏面に続く**

今回、ミュンヘン安全保障会議に出席して感じたことがあります。このような由緒ある国際会議の場で、日本もパネリストとして、世界に向けて外交政策をプレゼンテーションできるようにならなければならないということです。中国の外交政策は、今や国際会議の場において注目の的であり、多くの国がその動向に関心を寄せています。それは、中国が、日頃から外交政策について、国際社会に強いメッセージを発信し続けているからです。そういう意味で、日本の外交姿勢はまだ弱いと感じています。積極的平和主義とは何なのか？国際社会における法の秩序の大切さ等、様々な場で訴え続ける必要があります。そのためには、政治家をはじめ、外交に係る人材の英語力が不可欠です。私も政務官就任以降、久々に英語を駆使していますが、まだまだ精進しなければと痛感しています。

平成 28 年 3 月 吉日 外務大臣政務官／衆議院議員

黄川田 仁志

シリーズ・外務大臣政務官の仕事

ニュージーランド・クライストチャーチ地震追悼式典に出席

2月22日、ニュージーランドのクライストチャーチ地震5周年追悼式典に出席し、日本政府を代表して哀悼の意を表す献花を行いました。この地震は、日本人語学留学生等28名を含む185名が犠牲となる大変痛ましい災害でした。

追悼式典では、追悼式典に参加した、キー首相に対し、ニュージーランド政府のこれまでの継続的な支援に感謝を述べるとともに、ご遺族やご友人の想いを汲み取り、ニュージーランド政府による支援・協力を引き続きお願いしたい旨改めて伝えました。

被災地の状況は、観光施設等の再建は進んでいるものの、建物倒壊等に係る警察の捜査が未だ行われていたり、被災当時のまま放置されている土地が複数あるなど、まだまだ復興に時間を要する心象を受けました。



日本政府を代表して献花させていただきました

シリーズ・自立と誇りある国づくり報告

～海を活用した再生可能エネルギー～福島沖洋上風力発電所を視察

現在、経済産業省の委託事業により、福島県小名浜港から約30kmの海上で、洋上風力発電に係る実証研究事業が行われています。今回、国会議員として初めて、その発電施設を訪問させていただきました。港から、発電施設と連結できるアームを備えた専用のウォータージェット船に乗り、約1時間強で発電施設に到着しました。

この事業は、エネルギー関連の民間企業や大学、シンクタンク等から成るコンソーシアムによって行われています。「浮体式」と表現されるように、発電所を含む各施設は、海底に固定されているものではなく、海面に浮いています。浮体式洋上風力発電のビジネスモデルを確立し、大規模浮体式洋上風力ウィンドファームの事業展開を実現することが事業の主な目的です。

また、この事業を通じて得たノウハウを生かし、海外プロジェクトにも参加し、わが国の主要な輸出産業の一つに育成することも考えられています。

さらには、東日本大震災の被害からの復興に向け、再生可能エネルギーを中心とした新たな産業の集積・雇用の創出を行い、福島が風力を含む再生可能エネルギー産業の一大集積地となることも目指しています。

海洋資源というと、メタンハイドレートやレアメタルを思い出される方も多いと思いますが、海外では、洋上風力等の再生可能エネルギーへの取り組みも盛んです。海洋国家であるわが国も積極的に取り組み、海を上手に活用して、自立と誇りある国づくりを進めなければなりません。



洋上施設へは船のアームを伸ばし上がります



きかわだひとしとは？…自民党衆議院議員。2期目。東京理科大卒、米メリーランド大学大学院修了。松下政経塾出身。元環境コンサルタント。昭和45年生まれ。趣味は剣道、空手、野球、落語。妻、長女と越谷市内に在住。現在、第3次安倍改造内閣にて、外務大臣政務官を務める。主に、北米、中南米、日米同盟、国連に係る分野を担当。